

## 平成 24 年度 大阪女子短期大学高等学校 学校評価（報告）

### <学校自己評価>

#### ■教育課程・学習指導

1. 各教科等の授業の状況
2. 教育課程等の状況について
3. 各種データ等の取り扱いと活用について
4. 教科外教育の取り組みについて

#### ■進路指導

#### ■生活指導

1. 生活指導の状況
2. 生徒の人格的発達のための指導の状況
3. 保健管理（生活指導、保健部）

#### ■安全管理

#### ■特別支援教育

#### ■組織運営

#### ■研修（資質向上の取組）の状況

#### ■教育目標・学校評価について

1. 教育目標の設定と自己評価の実施状況
2. 学校関係者評価の実施状況
3. 学校に対する生徒・保護者の意見・要望等の状況

### <学校関係者評価>

#### ■近隣地区代表との意見交換

#### ■学校関係者評価を受けて

### <アンケート報告>

#### ■生徒・保護者アンケート

保護者アンケート、生徒アンケート、平成24年度年間総括を参考に、文部科学省「学校評価ガイドライン」に基づき、評価委員会で評価を行った結果をご報告します。

## ■ 教育課程・学習指導

### 1. 各教科等の授業の状況

- ① 説明、板書、発問など、生徒が参加できて、わかりやすい授業が実施できているか。
- ② 視聴覚教材や教育機器などの教材・教具を活用した授業をしているか。
- ③ 体験的な学習や問題解決的な学習、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習ができる授業をしているか。
- ④ 個別指導やグループ別指導、習熟度に応じた指導、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの個に応じた指導がおこなえているか。
- ⑤ ティームティーチング指導などにおける教員間の協力的な指導ができているか。
- ⑥ 学級内における生徒の様子を適宜把握したり、学習に適した環境整備などをおこなえているか。
- ⑦ コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業がおこなえているか。
- ⑧ 学習指導要領や各教育委員会が定める基準にのっとり、生徒の発達段階に即した指導がおこなえているか。
- ⑨ 授業や教材の開発に地域の人材など外部人材を活用し、より良いものとする工夫がおこなえているか。

#### <評価できるところ>

- ・生徒は意欲的に勉学に励んでいる。(約7割)
- ・教員はわかりやすい授業を行っている。(約6割)
- ・教員は教育熱心である。(約6割)
- ・英会話において、ALT (assistant language teacher) と英語の教員が協力することで、生徒たちに日常会話を指導している。

#### <改善すべきところ>

- ・意欲的に勉学に励んでいない生徒に対する対応が必要である。(約3割)
- ・わかりやすい授業ではないと感じている生徒が約4割おり、授業をわかりやすくするための工夫が必要である。
- ・授業中に私語の多い生徒、授業以外のことをする生徒がいるため、厳しい指導を行う必要がある。保護者からも同様の意見がある。
- ・受験に必要な科目が実施されていない、もしくは進行スピードが遅い。特に理数系の授業に見られるとのこと。保護者からも同様の意見がある。
- ・教育の熱心さが伝わらない教員が4割いると感じられており、保護者からも教員の熱心さがあまり生徒に伝わっていないとの意見がある。
- ・特別編成クラスにおいて、受験をもっと意識した授業を取り入れることが必要であるとの意見がある。

## 2. 教育課程等の状況について

- ① 学校の教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解がはかれているか。
- ② 生徒の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた取組がおこなえているか。
- ③ 生徒の学習について観点別学習状況の評価がおこなえているか。
- ④ 学校図書館の計画的利用や、読書活動の推進に取り組んでいるか。
- ⑤ 体験活動、学校行事などの管理・実施体制についてはきちんと整っているか。
- ⑥ 部活動など教育課程外の活動の管理・実施体制についてはきちんと整っているか。
- ⑦ 必要な教科等の指導体制の整備、授業時数の配当が適切におこなえているか。
- ⑧ 学習指導要領や各教育委員会が定める基準にのっとり、生徒の発達段階に即した指導が適切におこなえているか。
- ⑨ 教育課程の編成・実施にあたり、教育課程の実施に必要な、教科等ごとの年間の指導計画や週案などが適切に作成されているか。
- ⑩ 生徒の実態を踏まえた、個別指導やグループ別指導、習熟度に応じた指導、補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導の計画の作成実施がなされているか。
- ⑪ 中高連携、高大連携など学校間の円滑な接続に関する工夫がおこなえているか。

### <評価できるところ>

- ・教務部では、高短連携授業（科目）の授業形態や評価等の改定を行い、平成 25 年度から実施している。これは、職員会議で提案承認を受け、共通理解されている。
- ・進路指導部では、進学する生徒への全体・個別進路指導、外部模試とそのデータ解析、大学受験セミナー等を実施し、短期大学、4 年制大学へ進む生徒をサポートしている。また、就職する生徒には、受け入れ企業の確保や面接練習を行うことで、就職支援をサポートしている。これらは、職員会議で提案承認を受け、共通理解されている。
- ・入学して良かったと感じている生徒は 8 割以上、自分のクラスが楽しいという生徒は 9 割以上占める。また、入学させてよかったと考えている保護者も 9 割以上と大多数を占める。
- ・各教科目標を立て、達成状況を分析、問題点を列挙して、来期の方針を決定している。例えば数学科は、3 クラス 4 展開の習熟度別クラス編成を行っている。
- ・生徒・保護者ともに、進路に必要な情報は適切に提供されていると感じている。(約 8 割)
- ・生徒・保護者ともに、授業や模試が進路に対応していると感じている。(約 7 割)
- ・生徒・保護者ともに、部活動が活発であり、充実していると感じている。(約 6 割)
- ・生徒・保護者ともに、緑涼祭や弁論コーラス大会などの行事は楽しく、充実していると感じている。(約 8 割)
- ・勉強クラブを図書室で実施することで、図書室利用回数が増加している。
- ・勉強クラブでは、生徒の自主性を伸ばすために、あえて教員は立ち入らず、自学自習を推奨している。その結果、参加者数が増加している。

### <改善すべきところ>

- ・入学してよかったと感じていない生徒・保護者が少数存在する。
- ・各教科授業（特に理系科目）において、基礎定着を重点的に行うため、応用力の強化における指導が疎かになっている。保護者からも同様の意見がある。また、生徒の約 3 割が、模試や授業内容が進路に

対応していないと感じている。

- ・部活動や行事に対して、充実していると感じていない生徒が2～3割を占める。

### 3. 各種データ等の取り扱いと活用について

- ① 生徒の学力調査等の結果を分析し活用できているか。
- ② 生徒の運動・体力調査の結果を分析し活用できているか。
- ③ 生徒の学習についての観点別学習状況の評価・評定の結果を活用できているか。

<評価できるところ>

- ・外部模試を各学年に受験させ、個人成績を含むデータの分析を行っている。
- ・定期テスト結果を生徒自身にグラフ化させることで反省させ、次の学習計画を意識させる。
- ・定期テストにおいて、学年における頻度分布を作成することで、生徒の意識を勉強に向けさせている。

<改善すべきところ>

- ・観点別評価が各教科任せになっている。
- ・ファインシステムの利用頻度が少ない。

### 4. 教科外教育の取り組みについて

- ① 食育について、学内で指導計画の策定、指導、評価等がおこなわれているか。
- ② 人権教育について、学内で指導計画の策定、指導、評価等がおこなわれているか。
- ③ 環境教育について、学内で指導計画の策定、指導、評価等がおこなわれているか。

<評価できるところ>

- ・食育について、家庭科で食品群別摂取量の計算、食材の選定、調理実習など、今後の人生に必要な内容を生徒たちに体験させている。
- ・人権教育について、人権の尊重、異文化理解、環境問題、コミュニケーション能力の伸長など、社会全体の問題について幅広く取り組んでいる。
- ・環境教育について、保健で温暖化、大気汚染などを学び、個人が現状を理解し、環境維持のために努力するように指導している。
- ・表現力、発言力、リーダーシップ、協調性などを伸ばす教育として、コーラス大会や弁論大会を行っている。

<改善すべきところ>

- ・盗電についての指導が行き届いていないとの意見がある。

### ■ 進路指導

- ① 学校の教職員全体として進路指導に取り組む体制・整備はできているか。
- ② 生徒理解に必要な個人的資料や、進路情報についての収集・活用はされているか。
- ③ 生徒の能力・適性等を発見するための工夫はされているか。
- ④ 進路相談はされているか。

- ⑤ 適切な勤労観・職業観など主体的に進路を選択する能力・態度の育成のための指導（キャリア教育等）はされているか。
- ⑥ 保護者や地域社会、企業等との連携協力はできているか。
- ⑦ 進路指導のための施設設備の整備はされているか。
- ⑧ 職場体験活動の実施はできているか。

<評価できるところ>

- ・総合的な学習の時間を中心に、1年次から情報提供をしている。進路について意識改革できるような情報を提供している。
- ・担任・学年・進路指導部が連携して受験指導を行っている。
- ・1年次から模擬試験を実施し、生徒の実力を図る取り組みをしている。
- ・就職希望者についても、企業と連携し指導に当たることができた。
- ・近年、合格実績のなかった大学に合格させる仕組みができつつある。
- ・進路指導に必要な施設設備の整備がされている。

<改善すべきところ>

- ・情報提供は行っているものの、2・3年生の保護者は不足していると感じている。
- ・総合的な学習の時間で体験学習を行っているが、職場体験などの活動は実施していない。

■ 生徒指導

1. 生徒指導の状況

- ① 教職員全体として生徒指導に取り組む体制はできているか。
- ② 問題行動への対処、対応はできているか。
- ③ 非行防止教室の実施はできているか。
- ④ 保護者や地域社会、関係機関等との連携協力はできているか。
- ⑤ 生徒の出席率及び遅刻状況の把握はできているか。
- ⑥ 問題行動の発生状況の把握はできているか。

<評価できるところ>

- ・担任・学年・生活指導部が連携し、問題行動への対処・対応ができています。
- ・不登校・いじめについては、様々な関係を駆使して問題にあたっている。
- ・痴漢対策・薬物防止講演を実施している。
- ・定期的に学警連絡会に出席している。

<改善すべきところ>

- ・生徒・保護者アンケートに生活指導において教員間で差異が出てきている部分があるとの記述がある。

2. 生徒の人格的発達のための指導の状況

- ① 自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができるような指導はされているか。
- ② 保護者と連携協力して基本的な生活習慣を身につけさせるための工夫はされているか。
- ③ 生徒の適性を発見し能力を引き出し、それを発揮できるようにするための工夫はされているか。
- ④ 豊かな人間関係づくりに向けた指導はされているか。

- ⑤ 命の大切さや環境の保全などについての指導はされているか。
- ⑥ 社会の一員としての意識（公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど）についての指導はされているか。
- ⑦ 規範意識の向上に向けた指導はされているか。
- ⑧ (データ等)生徒の生活習慣の定着や人格的発達の把握はされているか。
- ⑨ (データ等)問題行動の発生状況は把握されているか。

<評価できるところ>

- ・基本的な生活習慣を身につけさせるために、さまざまな工夫を凝らして指導している。
- ・人権、税に関するもの・携帯電話の使い方など様々な講演会を実施している。

<改善すべきところ>

- ・生徒の適性を発見し、能力を引き出し、発揮できるようにするための工夫が求められる。

### 3. 保健管理(生活指導、保健部)

#### ■ 安全管理

- ① 生徒を対象とする保健（薬物乱用防止、心のケア等を含む）に関する体制整備や指導・相談の実施はされているか。
- ② 家庭や地域の保健・医療機関等との連携はできているか。
- ③ 法定の学校保健計画の作成や実施、学校環境衛生の管理などされているか。
- ④ 日常の健康観察、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組や健康診断の実施などはできているか。

<評価できるところ>

- ・担任・保護者・関係教職員・カウンセラーが密に連絡をとり、相談体制をとっている。
- ・定期的に保健だよりを発行し、健康維持に関する情報を提供している。

<改善すべきところ>

- ・清掃が習慣化されておらず、疎かになっていることがある。

#### ■ 安全管理

- ① 学校事故等の緊急事態発生時の対応はできているか。
- ② 家庭や地域の関係機関、団体との連携はできているか。
- ③ 法定の学校安全計画や、学校防災計画等の作成・実施、体制整備はできているか。
- ④ 危機管理マニュアル等の作成・活用はできているか。
- ⑤ 安全点検（通学路の安全点検を含む）や、教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組はされているか。

<評価できるところ>

- ・緊急事態発生に備えて、緊急メールの配信体制を整備している。
- ・年間2回の避難訓練を実施している。
- ・施設に関して約9割の保護者が満足していると答えている。
- ・法定の学校安全計画・学校防災計画等を作成している。



<改善すべきところ>

- ・登下校中に自転車通学の生徒が車と接触する事故が数件あった。交通マナーについての指導が必要である。

■ 特別支援教育

- ① 特別支援学校や特別支援学級と通常の学級の生徒との交流及び共同学習の取り組みはされているか。
- ② 医療、福祉など関係機関との連携は実施されているか。
- ③ 校内委員会の設置、特別支援教育コーディネーターの指名や校内研修の実施等、特別支援教育のための校内支援体制の整備はされているか。
- ④ 個別の指導計画や教育支援計画の作成はされているか。

<評価できるところ>

- ・複数カウンセラー体制で、保護者、生徒の教育相談に対応している。
- ・疾病等を持った生徒について、可能な限り中学校から情報を集め、学年団に提供した。
- ・不登校生等委員会、学年会議で、個々の生徒の情報交換が丁寧に行われている。
- ・必要に応じて、定例職員会議で状況を報告している。

<改善すべきところ>

- ・情報交換の必要な生徒が増えていて、能率よく丁寧な情報共有のための工夫が必要になってきている。個人フォルダの作成などを検討中。
- ・チームを編成して対応にあたるのが望ましいが、限られた事例にとどまっている。
- ・現状は、不登校生等委員会の中での報告とまとめを教職員に提供するにとどまっている。
- ・保護者の理解が必須条件である。子供の理解とより良い家族関係の構築のために教育相談を一層活用できるようにしなければならない。

■ 組織運営

- ① 校長など管理職の教育目標等の達成に向けたリーダーシップの状況、また、他の教職員からの信頼の状況は良好だと思われるか。
- ② 校務分掌や主任制等が適切に機能するなど、学校の明確な運営・責任体制の整備の状況は良好だと思われるか。
- ③ 職員会議等の運営状況は良好だと思われるか。
- ④ 学校の財務運営の状況（県費、市費など学校が管理する資金の予算執行に関する計画、執行・決算・監査の状況等）は良好だと思われるか。
- ⑤ 勤務時間管理や職専免研修の承認状況等、服務監督の状況は良好だと思われるか。
- ⑥ 各種文書や個人情報等の学校が保有する情報の管理の状況、また、教職員への情報の取扱方針の周知の状況は良好だと思われるか。
- ⑦ 学校運営のための諸事務等の情報化の状況は良好だと思われるか。

<評価できるところ>

- ・各分掌内の活動にとどまらず、縦割りの境界を超えて協力できるようになってきた。
- ・各分掌会議⇒運営委員会⇒職員会議と積み上げる意味が浸透している。

- ・財務運営、予算執行についても情報がオープンになり、良好である。
- ・職員会議は定期的開催している。
- ・教職員の勤務については、時間管理体制が整っている。
- ・学内イントラネットパソコンへのアクセス権を制限し、不要な情報を入手できなくしている。USBについても、管理している。

<改善すべきところ>

- ・情報漏えい防止のためのシステムに沿って学内PCを使用。今後も教職員の意識を高める努力が必要。
- ・各分掌での討議を尊重する傾向が強く、職員会議では微調整に終わることが多い。

■ 研修（資質向上の取組）の状況

- ① 授業研究の継続的実施など、授業改善の取組ができているか。
- ② 校内における研修の実施体制の整備状況はどうか。
- ③ 校内研修の課題の設定状況は適切だと思われるか。
- ④ 校内研修・校外研修の実施・参加状況は良好だと思われるか。
- ⑤ 臨時採用・非常勤講師等の非正規採用教員の資質の確保・向上に向けた取組の状況は良好だと思われるか。
- ⑥ 指導が不適切である教員の状況の把握と対応の状況は適切に行われていると思われるか。

<評価できるところ>

- ・公開授業を実施。一部の教科では、臨時教科会を開催して教授法・指導法について討議している。
- ・授業アンケートを実施。客観的な評価が可能になることを目指し質問項目を変更した。全クラス全教科で実施。今後の授業改善の資料とした。
- ・教員研修は、本校の課題（推薦入試制度について、学習意欲に直結する成績評価について）を取り上げ、全員参加で行った。
- ・新規採用教員（常勤講師、非常勤講師）に対するオリエンテーションを実施した。
- ・不適切な指導があった場合は、管理職から厳重注意して改善を促した。

<改善すべきところ>

- ・公開授業は、観点を明確にするなどの工夫をして、相互の啓発のための材料とする必要がある。また、保護者の授業参観などに発展させる必要がある。
- ・マルチメディア教室が改装充実したので、これを使った授業展開も工夫していく必要がある。
- ・情報機器や視聴覚機器、図書館を利用した授業研究や授業改善の取り組みは弱い。
- ・外部研修への参加率は低下している。出張のための時間確保などを進める必要がある。（平成25年度は、外部研修参加を義務付けた）。

■ 教育目標・学校評価について

1. 教育目標の設定と自己評価の実施状況



- ① 生徒や学校の実態、保護者や地域住民の意見や要望を踏まえた学校としての目標等の設定ができていると思われるか。
- ② 学校の状況を踏まえ重点化された短(中)期の目標等の設定ができていると思われるか。
- ③ 目標等を踏まえた自己評価の評価項目の設定ができていると思われるか。
- ④ 自己評価が年に1回以上定期的に実施されているか。
- ⑤ 自己評価の結果を、翌年度の目標等の改善に活用できているか。
- ⑥ 全教職員が学校評価に関与しているか。
- ⑦ 外部アンケート等の実施し、自己評価に活用できているか。
- ⑧ 授業など学校に対する評価が実施されている場合、評価を行った生徒・保護者の匿名性の担保への配慮ができているか。

<評価できるところ>

- ・前年度総括をもとに重点目標を定め、各分掌で取り組んでいる。
- ・各分掌の目標は、点検、総括しやすいよう、明確に定めている。
- ・保護者アンケートでは、すべての項目で満足度が高い。
- ・学校評価は評価委員が中心に行う。この結果を職員会議で公表し、全教職員の共有情報としている。
- ・生徒や学校の実態、地域との関係を見据えた教育目標の設定、重点目標の設定は適切に行っている。
- ・学年、分掌、教科単位での総括は丁寧に実施しており、全ての分野で次年度に向けた改善が行なわれている。
- ・生徒及び保護者アンケートでは、匿名性を担保している。

<改善すべきところ>

- ・保護者アンケートの自由記述欄には、辛らつな意見も含まれている。謙虚に受け止め、学校改善に役立てる必要がある。
- ・外部アンケートは実施していない。
- ・目標にそった自己点検評価については、実施できていない。

## 2. 学校関係者評価の実施状況

- ① 「外部アンケート等」を除き、保護者その他の学校の関係者による主体的・能動的な評価が年に1回以上定期的に実施されているか。
- ② 学校関係者評価が自己評価の結果を踏まえたものとして行われているか。
- ③ 学校関係者評価のための組織（学校関係者評価委員会のほか、学校評議員や学校運営協議会等の既存の組織を活用する場合を含む）の構成等の状況は良好か。
- ④ 学校関係者評価の評価者の構成の状況（保護者が含まれているか、など）はどうか。
- ⑤ 学校関係者評価の結果を翌年度の目標等の改善に活用できているか。
- ⑥ 学校関係者評価の結果の設置者への報告ができているか。

<評価できるところ>

- ・関係者評価（地域代表、保護者代表の評価）を受け、これを評価委員会で検討した。
- ・すべての評価結果は、職員会議で公表し、共有している。
- ・「内部評価」、「関係者評価」、「関係者評価をうけての内部評価」の全内容をHPにも掲載している。

・保護者アンケート、生徒アンケートは毎年実施し、職員会議でも報告している。学内での全分掌、委員会、学年の総括とあわせ、翌年度の教育目標設定し、よりよい教育に向けた改善を行っている。

<改善すべきところ>

・第3者評価を積極的に取り入れる必要がある。

### 3. 学校に対する生徒・保護者の意見・要望等の状況

- ① 生徒・保護者の満足度の把握が適切にできているか。
- ② 教育相談体制の整備状況、生徒・保護者の意見や要望の把握が適切にできているか。
- ③ 授業など学校に対する評価が実施されている場合、評価を行った生徒・保護者の匿名性の担保への配慮ができていないか。

<評価できるところ>

- ・様々な場面で保護者の要望を聞いている。
- ・家庭訪問、懇談会などを通して保護者と良好な関係を築いている。その中で、要望を聞き取っている。
- ・3者懇談で出た要望は、学年でまとめて管理職に提出している。
- ・カウンセラー2名体制で、教育相談を行っている。

<改善すべきところ>

・教育相談が特殊・特別なものではないことを、積極的に広報する必要がある。

## 学校評価（外部評価）懇談会議事録

日 時：平成 25 年 10 月 15 日（火）午後 4 時 30 分～午後 6 時 00 分

場 所：事務棟会議室

出席者：藤井寺区長会会長、春日丘区長、校長、副校長、教頭、事務局長、事務職（2名）

はじめに、校長より挨拶と以下の現状報告がなされた。

昨年の評価を受け、自分の意見を持たせる指導、その意見を表現・表明できる指導についてさらに高いレベルを目指すようにと指摘があり、加えて、一層の郷土愛を育てるよう要望がありました。これらを受けて以下4点について取組んで参りました。①生徒たちが自身と誇りを持って学校生活を送れるようにする。今後も建学の精神（思いやりと礼節・基礎的実学・柔軟な思考力・楽しい生き方）に則り、学習指導、生活指導、進路指導、特別教育活動など、様々な場面で丁寧な指導を推進する。②個々の生徒の進路希望実現のため、あらゆる施策を実施していく。③授業の在り方の工夫。IBでも指摘されているが、双方向の授業を取り入れ、生徒が意見や考えを述べる機会を増やす。④清掃活動を継続実施して、環境美化に協力するとともに地域住民と触れ合う機会とする。

生徒、保護者アンケートを実施しており、過去3年間のデータをみる限り、満足度は上昇しています。

本校では、大きく分けると①学習指導、②生活指導、③進路指導を行っており、①学習指導については、中間、期末テストだけでなく、小テストを行い、学力補充も行っています。学校の授業以外に、より勉強意欲のある生徒に対して、勉強クラブを設けています。生徒の自主性を伸ばすために、自学自習を推奨し、質問があれば教員が答えるという方法をとっています。その結果、参加者数が増加しています。また、予備校から先生を招いて、進学セミナーを実施しています。各自、目標設定をし、模擬テストを実施しています。今年度においては、学習合宿を実施し、系列施設宿泊によりコストを抑えることができ、持続的・継続的に自ら学ぶ力を身に付け、1000分間の学習が出来たという自信と達成感を持ってもらえました。また、資質向上の取組みとしまして、公開授業を行い、互いの教授技術向上のための一助としています。②生活指導について、欠席や遅刻が多い者に対して、時間やルールを守ることや生活習慣の確立をしていく指導を行っています。いじめ問題については、LINEがらみの事象が学期に1回は起こっており、様々な関係を駆使して問題解決にあたっています。③進路指導について、国立大の合格者が出たことで、生徒たちは感化され、公立大等の受験希望者が増えています。今年度においては、就職希望者が多く、その背景として、授業料無償化制度の恩恵を受けての入学者が多かったことが推測されます。

### 出席者からの意見と本校の回答

意見（会長）・・・生徒数はどのぐらいですか？

回答（校長）・・・1年生 186 人、2年生 166 人、3年生 128 人、合計 480 人です。

意見（区長）・・・地元中学校からの入学者はどのぐらいですか？

回答（校長）・・・地元中学校からの入学者は10人ぐらいです。

意見（会長）・・・地元中学校からの入学者が増えるように努力していただきたいです。  
藤井寺に通学していたという思い出は、生徒にとって残っているのでしょうか？

回答（校長）・・・残っていると思います。卒業生がよく遊びに来てくれます。教員の異動が少ないため、恩師と話ができるからではないでしょうか。

意見（区長）・・・地元での展示会等に出展をお願いしたい。それぞれの会場で学校名が出ることで、イメージupとなり、広報の側面から考えても良いと思います。

意見（区長）・・・クラブ活動が活発に行われていると雰囲気が良くなって良いですね。

回答（校長）・・・バレーボール部は、近畿でベスト4に入ります。部員数も多く、辞めずに続ける指導を行っています。

意見（会長）・・・女子サッカー部の設立は難しいですか？

回答（校長）・・・グラウンドの問題があり、難しいです。

意見（会長）・・・御校の生徒さんは、おとなしい感じがします。  
迫力とインパクトが足りないという印象があります。  
イメージ作りはどのようにされていますか？  
見えてこない感じがします。  
短大と言えば〇〇というものがあると良いのではないのでしょうか。

回答（校長）・・・インパクトのある学校、イメージ作りについても検討していきたいと思えます。色々貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

※ 関係者評価を受けて感じたことは、地元住民の皆様の学校に対する関心の深さです。自分達の住む町にある学校をより良くしたい、皆で支えたいという強い思いを感じました。

## 学校関係者評価を受けて——学校評価委員会の評価結果——

本年度もこれまで同様に、近隣住民を代表して本校の所在地区長さんと区長会会長から評価を受けた。

昨年度も強調されたことだが、区長さんの集まる定例会では毎回、藤井寺市内のすべての学校と在籍する生徒のことが話題になっていて、学校を町の財産としてとらえ、生徒を見守り育てようとしていることを痛感した。

生徒・保護者アンケート結果集計、自己評価を資料として提示し、概要と大きな変化について説明し、さらに、校長が本校の取り組み状況と課題を説明後、評価いただいた。

平成 24 年度の大きな変化として、学校隣接地に大規模住宅ができ、近隣住民との共存がこれまで以上に必要になってきたことがあげられる。この点についても、学校としての取り組みを説明し、今後も継続して支えあう関係を作るようにとの指導をいただいた。併せて、縁あって藤井寺に通学している生徒たちが、これまで以上に藤井寺のことを知り、藤井寺を愛するように指導するようにと要望された。また、藤井寺市で行われるさまざまなイベントへの協力も要請された。

その他、通学マナー、生徒たちの表情、学習指導について褒めていただいた。

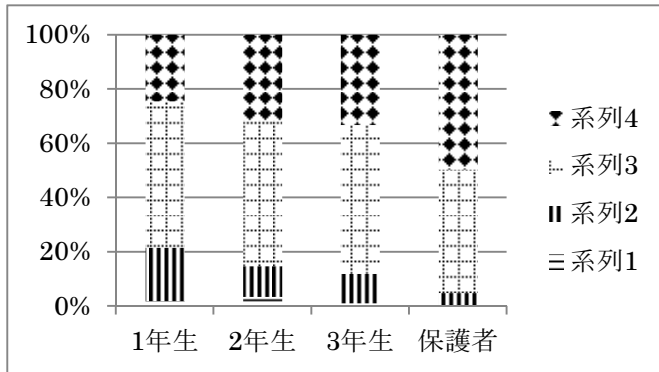
これらを受けて、評価委員会で検討した結果は次の通りです。

- ① 生徒たちが自信と誇りを持って学校生活を送れるようにする。今後も建学の精神に則り、学習指導、生活指導、進路指導、特別教育活動など、様々な場面で丁寧な指導を推進する。
- ② 個々の生徒の進路希望実現のため、あらゆる施策を実施していく。
- ③ 授業の在り方の工夫。IBでも指摘されているが、双方向の授業を取り入れ、生徒が意見や考えを述べる機会を増やす。
- ④ 清掃活動を継続実施して、環境美化に協力するとともに地域住民と触れ合う機会とする。
- ⑤ 登校指導の際には、これまで以上に近隣住民と挨拶を交わす。
- ⑥ 学校を象徴するキャッチフレーズ(実体を伴うもの)作りを急ぐ。

以上6点について、教職員が共有していく。

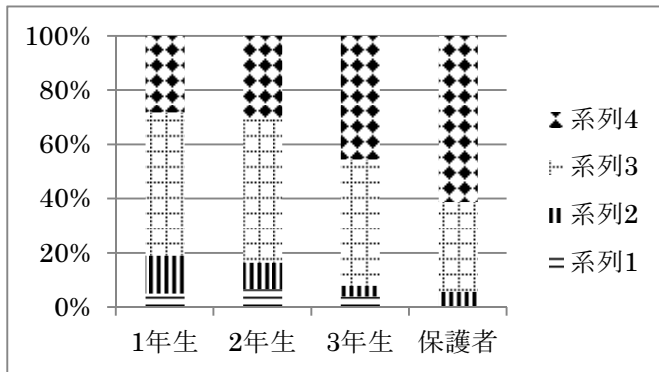
回答 4…そう思う、3…ややそう思う、2…あまり思わない、1…思わない

問 1 学校の雰囲気が良い



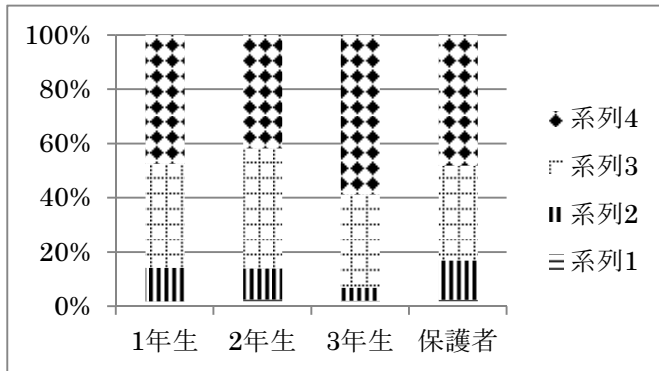
学年進行とともに肯定的な意見が多くなる。保護者の「そう思う」「ややそう思う」の合計は、94.4%に達している。

問 2 入学してよかった



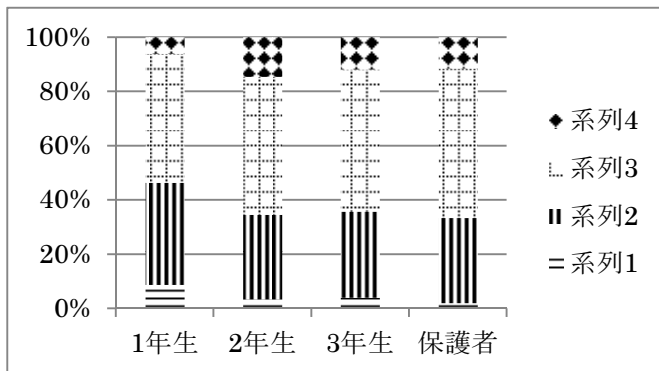
問 1 と同じ傾向が見える。学年進行とともに満足度が向上する。家庭との連携を密に取っていることもあって、保護者の方が満足度が高く、「そう思う」「ややそう思う」の合計は 93.1%。

問 3 自分のクラスは楽しい



「そう思う」と「ややそう思う」の合計は、1, 2 年生では変わらないが、3 年生では、93.1%に伸びる。

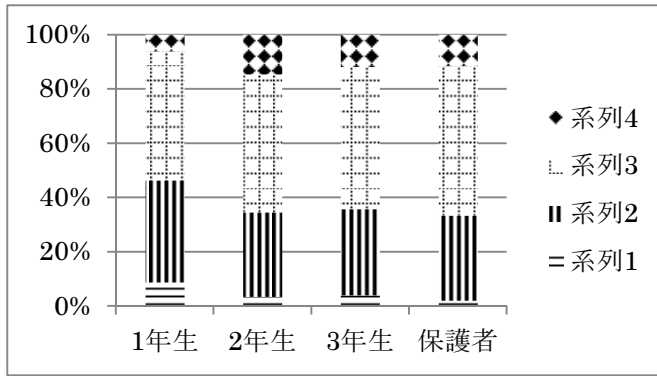
問 4 先生は教育熱心である



学年進行と共に生徒の満足度が上がっている。先生方の熱心な取り組みが実を結んでいる。ただし、保護者の3割近くは満足していない。

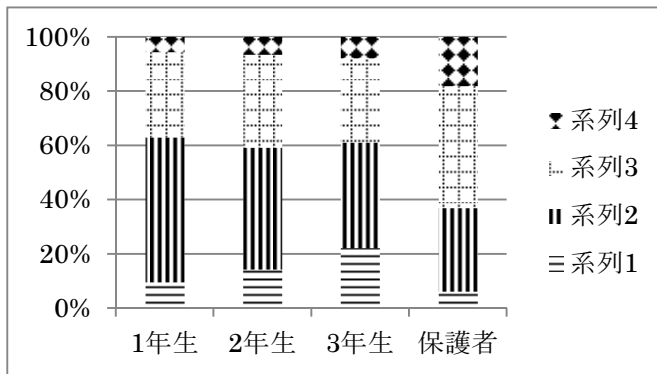


問5 授業が分かりやすい



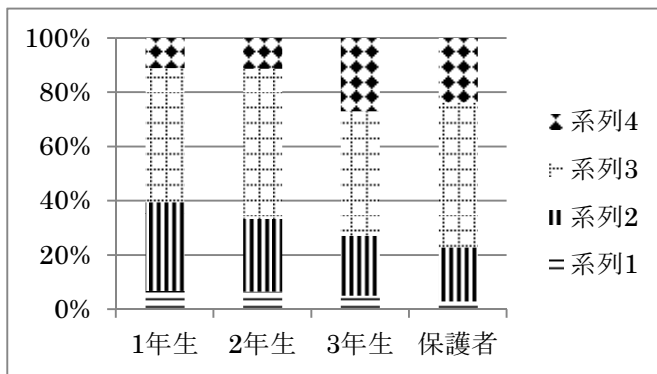
問4とまったく同じ傾向にある。授業の分かりやすさと教育熱心さは明らかに相関している。一層、分かりやすい授業に努める必要がある。

問6 多様な資格が取れる



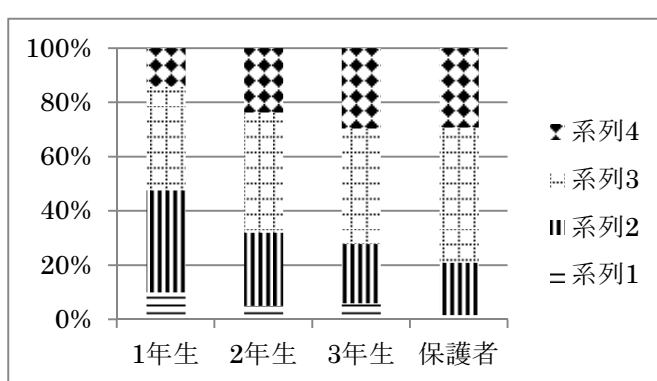
英語検定、漢字検定および書写検定に向けての取り組みに終わっている実態を反映し、他の項目と比較すると満足度は高くない。

問7 授業に意欲的に取り組んでいる



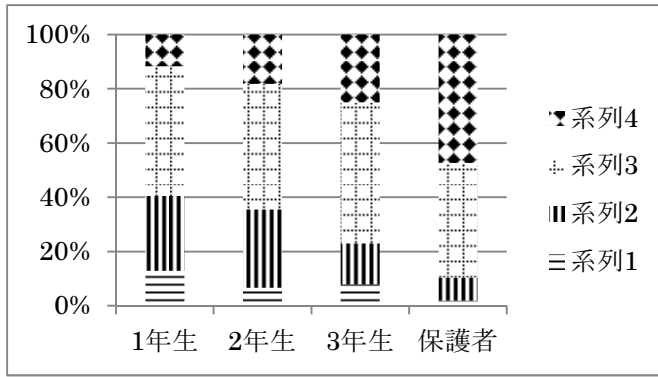
学年進行とともに、生徒の取り組みは向上している。進路学習と相まって効果を上げている。保護者の満足度は、生徒の実態以上になっている。家庭学習をしている姿を反映していると思いたい。

問8 先生は悩みなどを親身になって聞いてくれる



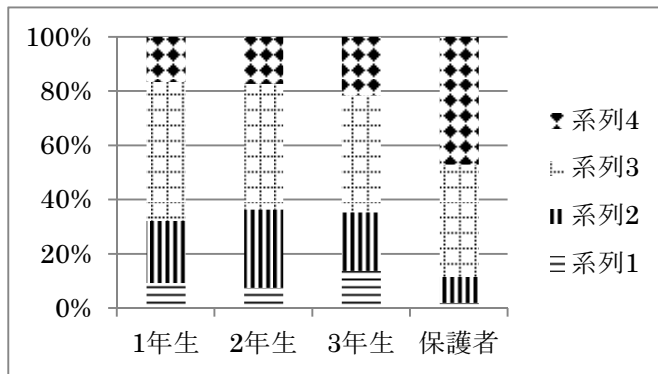
学年進行とともに、教員と生徒の信頼関係が深まっていることが見て取れる。ここでも、保護者の好感度は高く、「そう思わない」と答えた保護者は1.4%にとどまっている。

問 9 学校の規則は妥当である



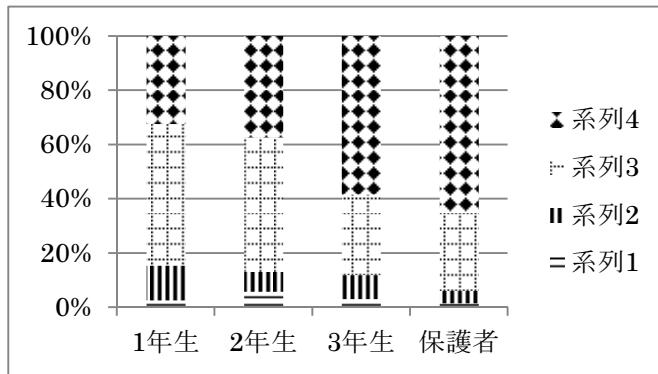
1年生では、4割の生徒が校則に不満を持っている。それが、3年生になると2割に減少する。保護者の校則への理解度も高いが、約1割の保護者に不満がある。

問 10 学校の生活指導について納得できる（お子さんは、学校の生活指導に納得している）



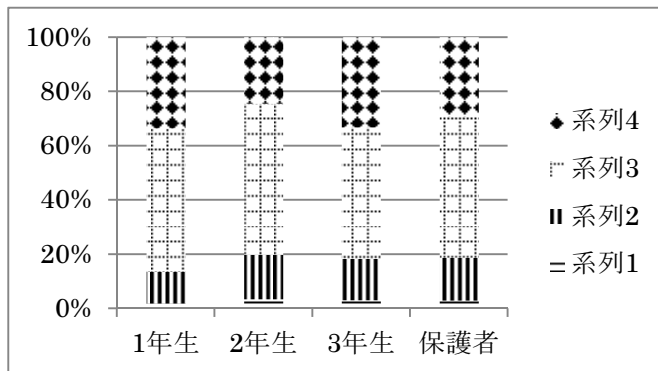
生徒の意識と保護者の意識にかなりの差を認める。保護者は、「そう思う」「ややそう思う」の合計が、88.8%であるのに対し、生徒は肯定的な回答が約60%にとどまっている。

問 11 学校の規則を守っている



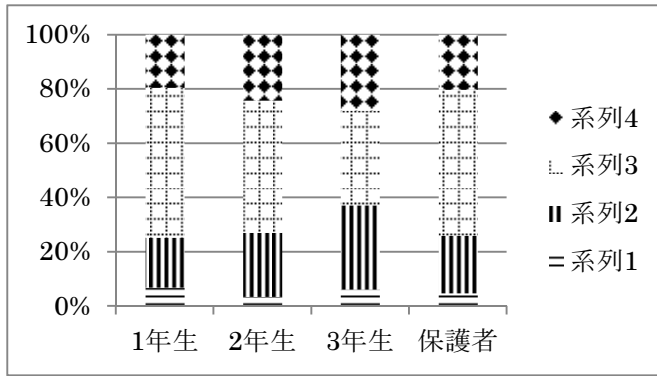
生徒・保護者共に90%が肯定的な答え。我々教員の印象とはかけ離れた結果になっている。

問 12 進路に必要な情報は適切に提供されている



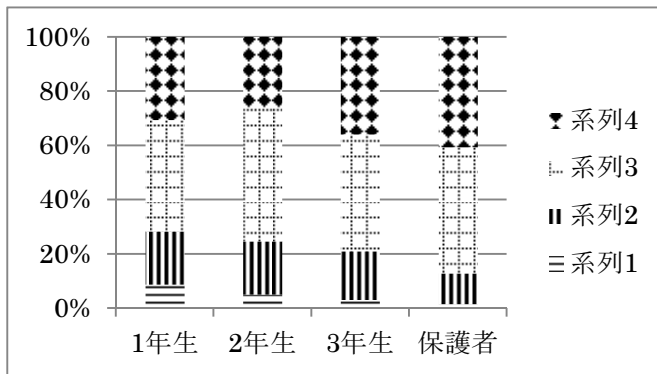
1年生で満足度が高いのは意外である。学年進行とともに、より多くの情報を提供しているつもりだったが、改善の余地があると思われる。

問 13 授業・模擬試験が進路に対応している



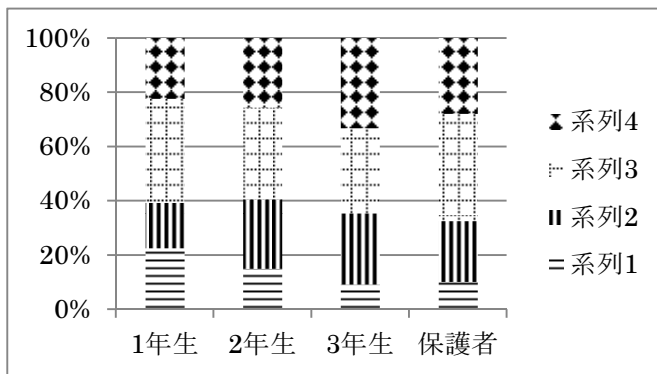
問 12 と同様の結果。上級生になるほど模擬テストが受験に直結する状況を作り、受験体制を作っていかなければならない。

問 14 学校行事は楽しく充実している



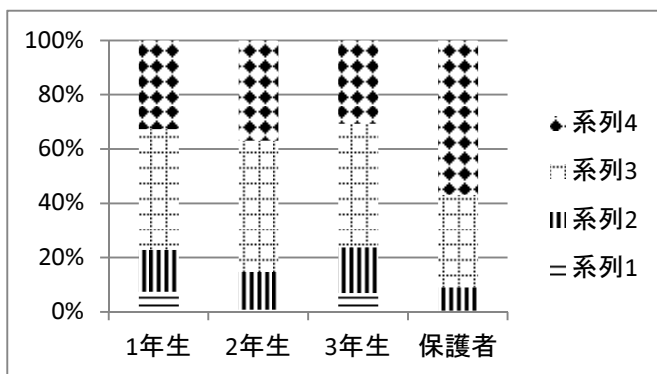
上級生になるほど行事に打ち込み、楽しんでいる。喜ばしい状況と考える。

問 15 部活動は活発で充実している



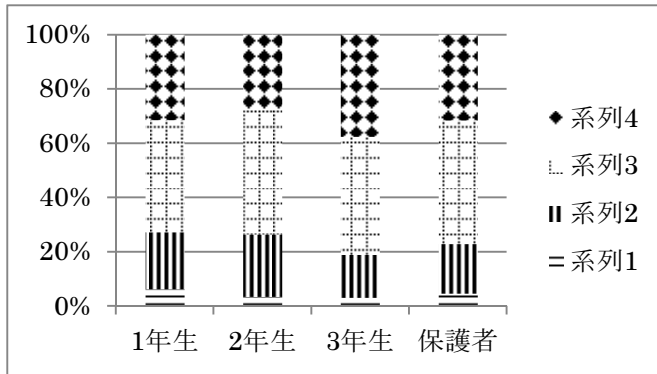
クラブ入部率と比例関係にある。生徒総数、教員総数の少ない中で、少数生徒の要望にこたえ切れていない現状である。

問 16 校内の施設・設備はよく整備されている



保護者の満足度が高く、不満を持っている割合は10%を下回っている。

問 17 誰に対してもあいさつができる



80%程度の生徒が「そう思う」「ややそう思う」と答えている。細かく見ると、上級生ほどその割合は高く、教育の効果と思われる。なお一層、挨拶のあふれる学校にしていく努力を続けたい。